

稲沢市議会 第3回意見交換会報告書

- 開催日時 平成29年4月27日(木)
[午前の部] 10:00~11:30、[午後の部] 13:30~15:00
- 開催場所 稲沢市役所 議員総会室
- テーマ [午前の部] 「人口減少対策としての子育て支援について」
小学校以降の義務教育の子どもをもつ世代に対する子育て支援



参加団体:小中学校 PTA 連絡協議会、子ども応援室 ここ・らぼ、子ども会連絡協議会
NPO 法人 たまごのあしあと、母親クラブ連絡協議会(敬称略、順不同)

- [午後の部] 「人口減少対策としての土地利用について」
空き家、空き店舗を活用した地域活性化



参加団体:愛知県宅地建物取引業協会西尾張支部、愛知西農業協同組合青年部
愛知県行政書士会一宮支部、稲沢青年会議所、祖父江町商工会青年部
平和町商工会青年部(敬称略、順不同)

■ 参加市民団体からの主な意見

1. 午前の部：「人口減少対策としての子育て支援について」

- ・スクールカウンセラーについて、県の派遣で配置されていますが、市の中で統括する者がいないので、県の方には情報は上がるのですが、学校の中で問題があった場合に市の方に上がる部署がないと伺っていますので、こちらの方の強化が必要ではないかと思えます。特別支援員に関しては、発達障害の子どもに対する研修を受けていないので、きちんと発達障害の子どもに対して、どうしたら学習面で伸びていくのかという研修を受ける必要ではないかと思いました。明日花に関しては、学校との連携が少し弱い感じがして、明日花と学校とが繋がる部署があればよいのではないかと思いました。
- ・家庭教育支援法も取り沙汰されていますが、現在の家庭教育と昔の家庭教育の方法が大きく違ってきており、今は、親御さんだけでは、子どもの心をきちんと育てることが、難しくなっています。今までは地域の方がいらっしゃったのですが、今では、その地域とも疎遠になってきているので、保健センターであったり、保育士であったり援助して、もう一度見直すということが市でもあったらよいと思えます。また、お母さんたちや支援する人達をどう教育していくかということも大きな力になると思えますので、家庭教育についての研修やお母さん方への講座に力を入れて、どうしたら子どもが健全に育っていくのかという根本的なことから、見直して進めて行っていただきたいです。
- ・子育てを終えて地域へ行きたいと考えていますが、65歳を超えてリタイアをした世代は、力やスキルはありますが、それを地域に出せないということがあります。そこで生まれ育ち、地域と接触のあった方は良いですが、勤務地が市外であった方は、リタイアすると家庭にいるか、図書館に行ったりしており、満足できていないという方が多くて、そういう方たちが言われるのは、お金、時間はあるが、子どもたちのために何かしたいが情報が無い、受け皿がないということを言われます。ですから、そういう人たちも巻き込んで地域の子どもたちを見守り、児童館、児童センター、小学校の方にボランティアで入っていただけるようなことができないか今考えているところです。
- ・子どもが受験をしてすごく思ったのですが、稲沢市は教育がとてもゆっくりで、一宮市とか他の市町村の子どもに負けてしまいます。そういった悩みを相談したり、心のケアをしていただける方がいればよいのですが、担任の先生が苦手だと学校が嫌いになってしまったり、教科の先生が嫌いになるとその教科がいやになってしまうので、教育の方でしっかり稲沢市の魅力を高めていってもらって、稲沢市って教育が素晴らしいというようになってもらいたいです。
- ・心の教室相談員を小学校にも配置してほしいし、中学校にも今年度2名ですが、全中学校にも配置してほしいです。
- ・子どもはその場で解決しないとすぐ忘れてしまいますので、ちょっとしたいざこざもその場で治めないといけないので先生方はすごく丁寧に対応していますが、その間授業は滞ってしまいますので、人員不足により担任の先生の負担が

すごくかかっていると感じます。

- ・心の教室相談員や65歳以上の男性など地域の方が学校に入っていくということがどんどんなっていけばいいと思います。ただ学校の方がなかなか、学校教育関係者以外の方を教室に入れるということに稲沢市では非常に抵抗感があると思われまます。
- ・心の教育という意味では、いじめというのは、どこでもあるという視点から人権教育をやろうと進めています。全ての子どもを守るという覚悟を持って、心の教室相談室をつくったり、地域の方をもっと学校に入れてみんなで見守るということまでは現実には至っていないと感じます。
- ・障害のある人が住みやすい地区は、どんな人も住みやすいです。私達の世代では、障害者教育で分けるということを経験してきて、触れ合った経験がないのでどう関わっていいのかが分からない。この20年後、30年後を見据えたときにインクルーシブ教育というの、まわりの子どもたちを育てるために大切に、また、特別支援教育も両輪で回していくことが重要であると考えます。私はインクルーシブ教育と人権教育は今の子どもたちに必須であると思っています。
- ・65歳という歳だけで線を引かれて、能力もあり、健康も全然いいと、ただ年齢で線を引かれてしまって、やることがない。今までは、バリバリ働いていて、それなりの役職もあったのに定年になってしまった。人をまとめたり、動かす能力は非常に長けているが、地域に関わってこなかったのが、家でボーっとしている。そういった能力ある人たちが、地域の子どもに関わって元気がもらえるという仕組みがあるといいなと感じました。
- ・プラスワンには、確かに地域の方が入っていらっしゃるかもしれませんが、現実には担任の先生は必ずいらっしゃる、その時間はフリーではありません。プラスワンが始まる前は、低学年を下校させて、授業の準備などをやれたはずが、その場にはいなくてはいけない。
- ・中学生に不登校が増えているのは、担任の先生とのコミュニケーションだと思います。他の相談相手が、部活の先生しかなく、心を許せる先生がいない。同時に勉強についていけなくて、朝起きるのも嫌になってというのが繰り返されて不登校になってしまったというのが原因だと思います。
- ・2人など複数でやっている場合は、遅れている子にもう一人の先生がついて補助をするという認識ですが、補助の先生は、習熟できない子のサポートをするという趣旨で本来はやっているはずですが、十分機能していないのではないかと思います。
- ・不登校の子どもたちがちょっと変わってきていて、人を殴ったりということよりも、自分の中に入って行ってしまうということを感じまして、不登校ぎみの子が学校に出てきて、ちゃんと授業を受けて、授業妨害もない。だけど出てこられない。1時間目、2時間目までは、保健室、相談室を行ったり、来たりしながら、教室に入れない。ただ、相談室の中では勉強をしているということで、

もっと自分の気持ちを吐き出す場所がないというのが一番大きな部分ではないかなと思います。

- ・ 誤解をされるといけません、家庭が根本的なものであると思います。不登校の芽というのは、小学校2年生ぐらいから出ていて、小学校時分だと、子どももまだ発言もないし、親にも先生にも抑えられて、自我が芽生えてきた思春期以降に自分で吐き出せるようになってくるのが中学生ぐらいで、そこで外に出ずに中に入り込んで不登校が起きると思ったりするのですが、根本的には、解決というと家庭になってしまうけれど、家庭教育イコールしつけではない。子どもを認めることであったり、甘えさせることであったり、子どもが自分の中で力を蓄えられるよう家庭の教育の仕方が一番大事であると思います。母親としても自分の子どもが作品であったり、分身であったりすると、子どもの心、気持ちをということができない。親の虐待も増えていますが、親が添えない部分を地域の老人などの他人が添えていくということが大事だなと思います。
- ・ 不登校が増えているのは子どもがひとりでいるというのが一番の問題で、たくさん大人の大人と触れ合っていくことが解決方法だと思います。
- ・ ひとからげで不登校といっても、誰とも遮断してしまう不登校というのは、気を付けて見ていかないといけないと思います。
- ・ 小学校も中学校も子どもたちはすごく日中忙しいですので、いつでも毎日、ここに行けば、話せる人が居るといように安心感があるので、相談員の方が毎日いらっしゃるそのような場所をつくっていただきたい。
- ・ お母さんたちが旗当番をしますが、どうしても少なくなってしまうと、回る順番も早くて、そんなには仕事も休めませんので、スクールガードさんたちが入ってもらって回すこともあり、ありがたく感じています。スクールガードさんたちからのお話も重要で、どこが危ない通学路なのか、子どもがどういうふうにしているのかがわかります。また、西小校区のスクールガードさんの会長は、先生のOBで伝承遊びにも参加させてもらって、すごくコミュニケーションをとっており、おやじの会もあって上手に子どもたちと関わっていると感じます。
- ・ スクールガードさんは、お母さん方の意見としては、すごく助かります。旗当番という役割は、困った困ったというくらい非常に重いんですね。旗当番を65才以上の方がやってくださると、もう少し余裕のある登下校であったりというようになるのではないかと思います。
- ・ 私は、道草推奨派なんですけれどプラスワンができてから、一斉下校なので、道草ができなくなりました。始まる前は、1・2年生だけの低学年での下校は確かに心配でした。そこにスクールガードが付くという制度は、とてもありがたく思ったのですが、プラスワンができて午後2時に一斉下校だと高学年の子が毎日連れて帰るのできつそうな感じはしました。
- ・ まちづくりでも子どもたちの見守りをしているのですが、スクールガードは学校の方の管轄で、連携が全然なく、スクールガード自体、もちろんとてもいい制度だと思いますが、地域では、子どもの見守りだとか考えているところは多

く、これがどこかで一つにまとまるということができるとすごくお互い情報交換ができ、たとえば、今は道路で立つときでも、てんでバラバラで活動していますが組織だって活動すると効率的に動けるのではないかと思うことはあります。

- ・心の教育とか人権教育といっていますが、稲沢市では、人権教育を15年ぐらい前くらいに千代田小学校が何年かやっていましたが、校長が変わると考え方も変わってしまい、やらなくなってしまいました。ですので、なかなか根付かないということはありますが、授業でやっているまちもありますので、ぜひ稲沢市でも人権教育とインクルーシブ教育をやってもらいたいです。
- ・私は、支援する人間を育てることが第1歩かと思しますので、人材育成の方に力を入れるべきであると思います。
- ・子どもたちが心を休めるような場所を1つ作ってあげることで、少し緩衝剤となる可能性があると思います。ですので、地域で65歳以上の方だったりとか、そういった方がそういった場所で、学校に行けなくても彼らの良さを認めてあげたり、関わってあげたりする必要があると思います。
- ・どの子も向上心を持っていると信じて疑っていない。大人は心の安定の環境を整備してあげることです。

2. 午後の部：「人口減少対策としての土地利用について」

- ・駅の地区計画という話で、昔の小規模開発のように1haに縛っているのは県下で稲沢市だけ、他は調整区域でも300㎡以上で住宅を建てて良い。犬山市、江南市、岩倉市、三河の方で準市街化みたいに住宅が建つ。なぜ駅周辺の1ha縛りをするのか、土地を買いと業者が2、3年死んでしまうのでリスクが高い。もう少し緩やかに考えてほしい。工業団地をつくるなら、なぜ住宅をつくらぬのか。稲沢市は、交通網、電車の線路が完全に分断されているので、線路から西には住みたくない。それを解決しないと話にはならないと思います。
- ・空き家対策はタイムリーで、西尾張支部の各市町で協議会を立ち上げてもらい、一宮市では空き家対策特別協議会を行政側で立ち上げ、党支部と連携を踏んで解消に踏み切っているところ。稲沢市は遅れており、そういった会をつくっていただければ、広く努めていきたいという体制は整っています。
- ・子育て支援、教育支援とよく言われるが、近隣の市町村より稲沢市のメリットを明確化すれば、こちらの方に足が向くと思います。稲沢市は、住みやすいところですが土地が高くて買えない。もう少し住める環境の選択肢を明確化し、比較ベースをつくれれば、若い世代の目がいくと思います。
- ・農家であっても、農地を誰にどう売るかということは、ルールの中でしか動けないので、専門的なことに関しては、市議と市民と意見交換してもらわなければならない。そこはそれぞれの分野の人が専門的なところは詰めていただきたい。この会議に昨年も出席したが何も変わらない。土地も絡み、お金も絡らみ、人もたくさん動くので当たり前です。なので行政、立法に関して求めることは規制緩和以外にはない。若い人が家を建てられない。畑は空いているし、作付けも

していない。市のレベルでルール緩和できるものは、変えるということは望ましい。誰の目にも耳にも留まる1個のアイデアだけでも、稲沢市はこれを行っているとなれば知名度は上がる。バランスとして月並みに行うと同じようになってしまうと思う。JR稲沢の東の多目的広場でイベントがあり、市で後援は出せまず、お金もいらず、目的に沿っていればお貸ししますということですが電源が借りられない。春と秋は毎週末にイベント出店希望者が集まります。電源が使えれば1日に2、3千人は集客できるイベントもできると思いますので、ぜひ考えてほしい。そうすれば、もっと稲沢市のPRになると思います。

- ・市のホームページの空き家対策の調査用の様式を見たが、ただチェックをするだけでどう使うかまでは書いてない。何かの手段で個人の方に売りませんか、貸しませんかとできればよい。どうしていいかわからない方もいると思うので、専門業者等から声をかけていただくことによって動くかもしれない。
- ・国道155線に出るには、馬飼井堀線しかないのですごく混みます。南大通線を早く繋いでもらいたいのと、すれ違いのできない道路を改善してもらえれば、祖父江町も人口が増えて、名古屋への通勤で、国府宮駅やJR稲沢駅に車を止めて行かれる方が多くなるのかなと思います。
- ・一般空き家は、民間主導になっていくと考えますが、リノベーションで、建物インスペクションという認定制度では、まず古い建物は耐震が取れない。耐震改修をしようとするリフォーム代金が非常に高い。日本の家屋は40年から50年でスクラップアンドビルドをしなくては耐久性の関係で仕方がない。稲沢市は物件が少ない割には、価格が高い、地価が高い。市外に転出するという事は、安い土地を稲沢市では買うことができないということがある。それは供給量が間に合っていないということ。インフラ整備の中から見ると、市街化調整区域の中に駅があり、有効活用されていない。一宮市も同じだが、駅周辺の住宅に限っては、建築ができるように条例化をしようと動いており、市街化調整区域内の駅周辺に関しては、住宅建設を推進するという形に変ってきています。そうすると駅があるので通勤に関しては確保され、土地もありますので、価格の安いものが供給できるだろうと考えます。
- ・一宮市としては既に空き家情報の提携をして、その利活用若しくは、できなければ処分という形になる。まちづくりを阻害するものの除去など優先順位をつけてやらないと発展しないし、税金の問題や相続関係とかの壁はありますが、直接依頼がないと手が差し伸べれない場所を行政と協会が一致するところから始めているので、稲沢市も予算を組まれ、活用していただきたいと思っています。
- ・名古屋市が空き家の相談窓口をつくってほしいということで、提携を結び相談窓口をつくりませんが、定期的ではなく、テストケースで受け、相談内容をまとめたいので対策を組みます。出てくるのは、処分などの費用を誰が持つかという部分で、ハード部分がこうだからいけるということではなく、どんな流れが一番有効に動くのかという話があり、実態としては団体として動きにくいという部分があります。これはなぜかということ総合的にタクトを振る人がいないことと考えられ、情報発信がすべてであり、大学教授がいろいろ提言していますが、あまりにもハードルが高く、初期コストもかかり、最終的にお金の所で引っ掛かってしまいます。個人の空き家を借りて自分でリノベーションし、そこに住む、耐久性のある建物を直して、貸すまたは再販するという2点が動きやすいと考えます。

- ・空き家の利用は、市街化区域内の建築物にしか運用できないと思ったほうがいい。調整区域は、昭和45年11月以降に建った建物は、貸したり、売ったりしてはいけないという制約つきで、建っています。例えば転勤で5年間貸そうという話も違法です。しかし昭和45年11月以前に建っている空き家は、有効利用というか転用ができます。空き家利用より、要は危ないから壊していいかどうかという問題も大事ですが、運用というのは、調整区域の建物に関しては、違反だから、都計法から変えなくてはできない話で、行政が関わることはできないと思います。
- ・都市計画法で、分家住宅とか雇用住宅、線引き後に宅地転用された土地に関しては、申請人が利用するのが原則で、誓約書も出します。併せて転売、賃貸し、用途変更はしませんと印鑑証明もつけて出しています。だから調整区域で他者に利用させるといのは、都市計画法上、違法です。
- ・農業をしたい、就農をしたいという若者に対する支援がどこの行政も遅れています。農業委員会は別として、非常に縛りがきつく農業に参入がしにくい。実際自分で借りて、ある程度期間をおいて、経験を積んだ人しか農業者と認められない。縛りがきつく農業がやりたくてもやれない。稲沢市では、たくさん土地をもってみえるので、使わない土地を貸すという形からスタートさせ、それを取りまとめる窓口があれば、地元に住むわけですから、住宅も市である程度バックアップしていただければ、人口の増加の一端になると思います。よその市もこういったことをやっていないので、農地を多く持っている稲沢市がやってはどうかと思います。
- ・新規就農者はここ5年でとても増えました。稲沢市は、土地を他人に貸すのに抵抗があるようなので、市が規制などを明確にし、責任を持ってくれるようなルールをつくれれば、地主は安心すると思います。また新規就農者に必要以上のフォローは必要ない。農水省が新規就農者で年間120、130万払いますということで、新規就農者の数は増えたが続かない。必要以上のフォローは良くないと思います。
- ・空き家に住みたいという方は、あまりいないと思います。きれいなアパートやマンション、賃貸にいいものがある。今、DIYがはやっていますので、空き家を改造できるとかPRして、若い人に興味を持ってもらい、市外から稲沢市に取り込むことを続けて、かつ各種規制を外すことをしていけばいい。全国各地に青年会議所は活動していますので、何かのPR方法を言ってもらえば、意見や事例を集めることも可能です。
- ・基本的に耐震性がない建物では現実的でない。耐震工事も耐震性を付加するだけで、寿命が延びない。新しい家が欲しいということであれば、その辺の線引きが必要で空き家は流通には不向きかと思います。
- ・徳島に東京のIT業者を誘致して、空き家に本社を移した話を聞いたことがあります。IT関係のオフィスなら、どこでも仕事が成り立つ職業だと思いますので、市で建物を何件か用意して全国に募集をかけ、オフィスを構えてもらうなどして、定住を促せばいいのではと思います。
- ・市街化調整区域に20年、30年住んだら、既得権を認めてほしいということは協会からも県へ何度も陳情している。尾張部は、繊維産業が栄えたときに集団就職をされた方がたくさんおり、昭和45年以前からこの地域に住んでみえた方で、直系であればひ孫分家まで認められるようになった。地元根づいて、

- 2代、3代と住み続けることができるよう県へ要望してほしい。
- ・人口を増やすことだけを考えるのであれば、市街化調整区域に大学をつくってはどうか。そうすれば、そこに寮も建ちます。または農業実習、外国人の研修名目とか、各業界の方が組合などをつくって、雇用で外国人を受け入れるとかの方法も考えられます。
 - ・団地に住んでいる子どもの方は、ほぼ稲沢市に住めていないのが現状で、早い段階で手を打つことが必要で、現在、下津地域にはたくさん人がいますが、そういった方々の子の世代にはどこでも家が建てる、近くに住めるという状況をつくる必要があると考えます。
 - ・土地計画法、農地法をどうしたら見直せるのか。今に合ったものになるのか、権限で変更できるものか。要望して熱意で決まるものなのか。それは市、県単位では、どうにもならないことですか。

■ 市議会としての所感

午前の部

- ・稲沢市の教育は、ゆっくりして、競争原理が働いていないイメージとのことなので、よりいっそうの「子育て・教育は稲沢で!」の取り組みのPRが望まれます。
- ・今年度から心の教室相談員が2人配置されましたが、もっと配置を増やしたりして、コミュニケーションが常にできる状態や場の整備、心の教室相談員、スクールカウンセラー、特別支援員も含めて、精神面をサポートする体制をもっと充実するべきだという意見が出されました。
- ・家庭教育について、保健センターであったり、保育士であったりといった所がもっと連携をとってはどうかという意見が出されました。
- ・地域と学校教育、子育てという部分について、いろいろ政策を進めているが、その進めている政策がうまく機能しているのかどうか、こうしたらもっとスムーズにうまく機能していくのではないかという検討を含め、参加者と自由闊達な意見交換ができ、有意義でした。
- ・今後は、いただいた意見を尊重し、議会活動の中で、政策提言に取り組んでいけたらと考えます。

午後の部

- ・幹線道路のインフラ整備は、南北線はある程度整備が進んでいますが、東西線においては、整備が遅れている状況で、特に踏切により慢性的な渋滞を招いています。そのため、議会でも連続立体交差事業（連立）も含めて検討していますが、結論には至っておりません。
- ・一宮市においては、周辺において、地区計画制度により住宅建設を誘導する計画が進められ、具体的なガイドラインが決まっているようです。
- ・稲沢市においては、名鉄国府宮駅、JR稲沢駅周辺において地区計画制度により大規模開発を誘導しているものの、それ以外の駅においては具体的な施策を展開するまでには至っていません。

- ・近隣の江南市、岩倉市、そして、三河では新城市において、条例制定し、市街化調整区域で家が建つ取り組みを進めています。
- ・今後、人口は確実に減少していきます。そのため、若い世代が稲沢市に移り住んでいただくためにありとあらゆる手立てを講じ、人口減少を食い止めていく必要があると思うところです。特に稲沢市は、市域に占める市街化調整区域の割合が多いため、市街化区域の拡大や、他市の状況を参考として地区計画制度や条例制定などの手法を検討し、市民の皆さんが望む住宅建設ができるような土地利用を図ってまいりたいと思います。
- ・今回の意見交換会で得たものは、しっかり組み立てて動き始めるべきであると改めて感じたところです。今後も有識者の皆さんの貴重なご意見をいただきたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。